

No.	項目	意見・提言等	答申	総合計画の記載内容
1	重点課題	②茂原には、活力がないというか、「これでよい」と思っているところがあり、そのような気持ちを変えないといけないと思う。外から若い人を入れないと活性化しないが、なかなかうまくいっていない。		課題4 一人ひとりの意識の醸成
2	重点課題	②また、相互評価のまちづくりも今後重要になる。色々な資源を相互に評価する。例えば教育では、教わる、教えるの関係性を固定するのではなく、両者の関係性を深めていく。経済では物をつくる、買う、福祉では支える、支えられる、観光では訪れる、もてなす、など相互の関係性を深めていく。また、上から下ではなく、フラットに関係性を作る中で可能性を膨らませていく。		
3	重点課題	③序論の「まちづくりの重点課題」はストーリー性に欠けている印象がある。色々な項目が並べられているが、具体的な動きに結びつける際の流れが見えてこない。例えば、ライフステージをイメージすると、子どもが生き生き育つ環境づくりは、出産・子育て・教育に関連し、働くことは産業やシティープロモーションに関連し、その後高齢者福祉の話が出てくる。ライフステージを考えたつながりの中で、重点施策をどのように位置づけていくかが形になるとよい。レジリエンスの向上はまちづくり全体に関わる空間的な位置づけになる。コミュニティの活性化は全分野に関わるベースになる。多様な主体の協働や先進技術はまちづくりを進める上での手法や工夫のしどころになる。ライフステージや地域空間を念頭に入れ、新しい手法や様々な力を交えてまちづくりを進めることを記載すれば、基本構想の焦点が明確になってくると思う。	まちづくりの重点課題の整理に用いた市民生活に沿った視点は、基本計画にも取り入れて、行政においては分野横断的な取り組みを、市民の側からは自助・共助の動きを、それぞれ誘うような工夫を検討されたい。	【市民アンケート、市民ワークショップ、審議会の意見などを基に抽出した8つの重点課題を、市民のライフステージでどの期間に位置付けられるかという視点から「時間的な視点」3課題に、どれだけの空間的広がりを持つ課題であるかという視点から「空間的な視点」3課題に、時間・空間双方に共通するまちづくりの手法として2課題に、それぞれ整理した。】
4	重点課題	④時間的な視点について、ライフステージを意識した流れになっている。これまでの行政計画は、分野別にぶつ切りになっていた。「学ぶ」「育つ」と「働く」のつながりをどう考えるのが重要になる。市内で働く人が子どもに教えることや、働くことを体験するなど。また、「働く」と「老いる」、「学ぶ」と「老いる」の関係性も問われている。異世代間交流や世代のつながりを強く表現してよいと思う。「老いる」の後に「死ぬ」が来る。行政では位置づけづらいが、現在は多死社会である。高齢者にとって、どのような最期を迎えるかが課題となっていく。死に備えた学びの機会を地域で充実させる動きも出てきている。		【「時間的な視点」「空間的な視点」については、基本計画に掲載されている施策の市民生活における位置づけを理解する手段として「施策の対象となる領域」欄を設けた。また「関連する時間的・空間的視点に関わる取り組み」欄を設け、分野横断的な取り組みの例を記載した。】
5	重点課題	④空間軸について、若干すわりが悪い。コミュニティは近隣のつながりを現す。多様な主体は、ボランティアや企業などで様々な人の参加を指す。市として何をするのかという公助が書かれていない。自助と共助、公助がそれぞれどう関わるのかについては、補完の関係である。より小さな単位ができることはやり、それができなければ、もっと大きな単位でやっていく。自助、共助ではできないことを行政がすることを、補完行政という。初めに行政ありきではなく、補完として何をするのか今後の課題になる。3つの関係性を書きこめるとより良い図になると思う。		
6	重点課題	④2つの視点をつなぐのが協働になると思う。子育てを地域コミュニティではどう考えるのか、市域ではどう考えるのかなど、時間軸と空間軸の掛け合わせを示すことも可能だと思う。		

茂原市総合計画審議会答申並びに意見対応(基本方向)

No.	項目	意見・提言等	答申	総合計画の記載内容
1	基本方向	②茂原は水害が多いが、川の改修が進んでいない。生活の場を整える必要がある。		(1)誰もが安全安心に暮らせるまちづくり 地震や風水害といった大規模災害に対する対策を進め、地域全体のレジリエンス(回復力、復元力、しなやかさ)を高めるほか、医療環境の充実を図り、全ての市民がどのようなライフステージにあっても健康で安心して暮らせるまちをつくります。
2	基本方向	③昨年の災害を受けて、第一に河川の整備を早急に国や県、近隣の市町村とともに進めていく必要がある。2名の死者が出ており、また、気候変動の影響が大きくなると予想されていることから、喫緊の課題として取り組むべきだと思う。	頻発する自然災害への対応は喫緊の課題であり、市民の生命を守り、安心して暮らせるまちづくりに努められたい。	
3	基本方向	④どのようなレベルの防災対策をしても100%自然災害を根絶することはできない。東日本大震災における海岸の堤防にしても、当時は十分だったが、実際は津波を防げなかった。温暖化の影響で想定外の災害が増えている中で、「安心」を強調しすぎるのはどうなのか。		
4	基本方向	③少子超高齢社会になるのが見えているが、これからの時代を担う子どもたちのため、子どもを育てやすい環境にお金を使う必要がある。	持続可能なまちづくりには、それを支える人材の育成が不可欠である。これからの時代を担う子どもたちのため、育てやすい環境づくりと、社会の形成に資する能力の育成に努められたい。	(2)明日を担う人を育む未来に向けたまちづくり 安心して子どもを産み育てられ、子どもが健やかに育つ環境づくりを進めるとともに、子どもたち一人ひとりが柔軟かつ主体的に未来を切り拓いていくのに必要な能力を育むための教育の充実を図ります。
5	基本方向	⑤茂原の資源に七夕まつりがあるが、将来につなげるには、大人だけでは限界があると思う。例えば、各学校で七夕クラブを作ってはどうか。子どもたちの目線で七夕まつりのプロデュースをする。茂原学を本の上で行っているが、実践する機会となる。文化クラブ志向の子どもたちも多い。教育委員会との連携を通じ、将来の担い手の育成として検討してはどうか。		
6	基本方向	②地域コミュニティの形成が一番大切だと思う。市民が支え合い助け合うことが重要になるため、人が集まって話し合える場所をつくる必要があるのではないか。	人は地域コミュニティをはじめとする、さまざまな分野の共同体(コミュニティ)に所属している。コミュニティは市民生活や経済活動において基礎となるものであり、これを立体的に捉え、その密度を高めることによってまちづくりの力を引き出すことに努められたい。	(3)一人ひとりの地域参加で拓く協働のまちづくり 自治会をはじめとした地域コミュニティの活性化を図るとともに、企業や外国人など、従来はまちづくりへの参加が少なかった多様な主体も、重要な担い手として捉え、「オール茂原」で協働のまちづくりを進めます。
7	基本方向	③人は、地域コミュニティ以外にも、出身、学校、職場、趣味のコミュニティなど様々なものを持っている。地域コミュニティは防災や子育てに関連するが、コミュニティを立体的に捉え、つながりの密度を高めていくことを考える必要がある。コミュニティは市民生活においても経済活動においてもベースになるものであり、コミュニティが疲弊しているところは何事も前に進まない。これだけの転換期の中で、コミュニティを捉えていくことは必要不可欠である。		
8	基本方向	②まちづくりに多様なプレーヤーを入れ、民間資本で民間事業者がまちづくりを進めていく必要がある。	人口減少の進行に伴い、まちづくりに使える人や金などの資源は今後減少していくことが見込まれている。これまでまちづくりに参加してこなかった市民や企業などの意識を変え、知恵を出し合える体制づくりを検討されたい。	
9	基本方向	④市役所は職員や予算が減っていくため、市民の意識を向上させて、協働することが重要だと思う。市民提案事業をもっと取り入れて、活動するようにすれば、お金を使わず知恵を出し合って協力できると思う。		
10	基本方向	④教育分野では障害者児童への支援、農業分野では小学校で農業教育、国際協力分野では外国人に対する日本語教育、行政評価分野では、市民による評価などの取り組みができると思う。協働の場では、若者の意見を取り込む仕組みを作ると良いと思う。		
11	基本方向	②茂原の歴史や文化を大事にし、観光行政などに活かしていくとよい。	歴史や文化、自然など、茂原が持っている良さを積極的に発信するとともに、それらを活用し地域活性化に努められたい。	(4)地域資源を活かしたにぎわいあるまちづくり 首都圏中央連絡自動車道(圏央道)開通によるアクセス向上を契機に、地域全体の産業競争力の向上に取り組むほか、歴史や文化、自然といった地域資源を活かしたシティプロモーション、先端技術の活用による地域活性化を推進し、にぎわいあるまちをつくります。
12	基本方向	②茂原の良い所が外に発信されておらず、全国的に知られていない。もう少しアピールするべきだと思う。		
13	基本方向	②他の自治体にはない茂原市独自の資源は、天然ガスである。医療や福祉分野で、行政と民間のパートナーシップにより天然ガスを活用したまちづくりをもっと積極的に進めていただきたい。		
14	基本方向	②茂原は立地が良いゆえに、それに甘えているのではないか。木更津ではバスターミナルに大きな駐車場があるように、いい立地をさらに生かす工夫があるとよいのではないか。		

茂原市総合計画審議会答申並びに意見対応(将来都市像)

No.	項目	意見・提言等	答申	総合計画の記載内容
1	将来都市像	②「安全・安心」については、災害対応や、安心して地域で暮らせるという視点が大事だと思う。		
2	将来都市像	②持続可能な思考に関わる言葉が入るとよいと思う。		
3	将来都市像	②今後10年間は治水や災害に強いまちに軸足を移し、アピールすることが必要だと思う。今回の災害で茂原が全国区になってしまったが、それを逆手にとって災害対策をメインにするとよいのではないか。現在も困っている市民がいるため、市民を力づける意味でも重要だと思う。		
4	将来都市像	②これからのまちづくりの力を引き出すためには、世代、分野、団体、領域、近隣自治体がつながることが問われてくる。単独でするには限界がある。		
5	将来都市像	④自治体では今後、単独でのまちづくりは限界を迎えるため、市内・市外の地域資源を生かしていくことが重要である。交流人口や関係人口に代表される「つながり」の中で、力を創出していくと良い。立地的・歴史的優位を踏まえ、茂原だからこそできることを考えると良い。	<p>今後、持続可能なまちづくりを進めていくためには、市内、市外の地域資源を活かし、地域、分野、世代を越えた様々な主体がつながることで生まれる力が必要である。市全体がまちづくりの力を生み出す場「交流拠点」となるビジョンを市民が共有できるように努められたい。</p>	<p>未来へつながる「交流拠点都市」もばら</p>
6	将来都市像	④外房の中核都市として、賑わいのあるまちを目指した方がよいと思う。防災や地域の強靱化はもちろん重要だが、産業が発達した賑わいのあるまちを目指した方がよいと思う。		
7	将来都市像	④要塞のようなまちをつくるより、交流や活性化を目指した方が、魅力的なまちになる。安全ばかりを強調するまちづくりは寂しいと思った。		
8	将来都市像	③人、お金、物、場所などまだ評価にさらされていないものを評価することで、可能性を見出すことを模索する環境づくりが必要である。どの施策をするにしても、推進する力が必要であり、それをどのように誘っていくかが重要である。双方向性を豊かにすることで可能性を引き出していく必要がある。これによってまちづくりの力が生まれる。これまでは税金である程度その力をカバーしていたが、税収が減る中で、放っておくとその力が減っていつてしまう。力を生み出すプロセスづくり、場づくり、環境づくりが必要である。		
9	将来都市像	④協働は色々な広がりがあり、間をつなぐ役割を果たす。行政も地域も縦割りになりがちである。各団体が自己完結型で活動してきたが、それが限界を迎えている。協働により、間をつないで連携して価値づくりや課題解決をする。また、単に連携で終わるのではなく、市外の人も参加し、お金の流れも作るなど、色々な広がりを持っている。		
10	将来都市像	②市民は現在の計画のテーマを共有していない。「安心」など、簡単な一言で市を方向付けると、市民が共有でき、浸透していくと思う。		

茂原市総合計画審議会答申並びに意見対応(基本政策)

No.	項目	意見・提言等	答申	総合計画の記載内容
1	基本政策	③限りある資源は、住みやすいまちづくりに振り分けるべきだと思う。災害対策もそうだが、病院や公園、働きながら子育てがしやすいまちがよいと思う。今後は、テレワークのような働き方やネットショッピングが広がってくる。茂原に住むことがよいことが感じられるとよい。特に病院が心配だが、公園もあるとよい。	政策分野の名称のみを示すのではなく、各分野における目指す方向を明らかにし、市民にわかりやすく示すように要望する。	【災害に強く、安心して住めるまちを目指す観点から「しなやかで安心して住めるまち《安全安心》」を、市民や企業などさまざまな主体へまちづくりの参加を促していく観点から「市民が主役の持続可能なまち《協働推進》」を設定した。】
2	基本政策	③人口減少は全国で進んでいて、止めるのは難しいが、できれば現状維持となるようにしたい。それには、住みたくなるまちが必要で、働く場所がある、災害に強い、暮らしやすい、医療が充実している、高齢者や障害者に優しい、などの視点がある。それらを実行することによって、現状維持の方向に行けばよいと思う。総合計画であるため、具体的な策は書かれていないが、方向性を明確にし、最重要の課題に予算を振り分けることが必要だと思う。アンケートでは、茂原市に力を入れて欲しいこととして、保健医療、高齢者福祉、病院・医療施設、河川・排水路の改修などがあったため、それに沿った予算を考えていただければと思う。		
3	基本政策	④将来都市像のように、政策に目標を書く方が分かりやすいのではないか。今までと同じ施策内容であっても、目指す方向を示した方がよい。		【基本政策分野ごとに目指すまちの姿を記載した。】
4	基本政策	④時間軸・空間軸と基本政策のリンクはできると思う。時間軸や空間軸の中に基本政策を位置付けることは可能である。その方が、ライフステージや空間的な位置付けができると思う。教育文化や健康福祉はライフステージ、産業振興や都市空間は空間軸に位置付けられる。このままでいくと、縦割り行政が変わらない。これまではそれで良かったが、まちづくりに活かせる資源に限られている中、力を誘える計画になるよう、フレームを考える必要がある。市民自治においては、協働が時間軸と空間軸をつなげる役割を果たす。「つなぐ」が前面に出るようなフレームになると良い。		【重点課題で示した視点を考慮し、「市民生活に関する基本政策」、「都市づくりに関する基本政策」、2つの視点をつなぐ「協働推進」と整理した。】

No.	項目	意見・提言等	答申	総合計画の記載内容
1	全般	②総合計画は行政目線で語られがちだが、市民目線で語らないと「われわれの計画」になっていかない。		
2	全般	④「協働」は難しい言葉である。行政が使う場合は、行政ができないことを市民や企業と一緒に取り組むという意味になる。市民目線では、行政に依存するのではなく、自分たちでできることを共助として、連携して色々な立場で取り組むという意味になる。視点によって協働のイメージは変わってくるが、立場を超えた連携や、様々な地域資源を共有し、課題解決に活かすことが考えられる。		【「施策の対象となる領域」欄に、その分野の施策が市民生活のどの領域に影響を与えているかを示した。】
3	全般	③昔の右肩上がりの時代では、庁内各課が自らの事業をできるだけ多く入れようと努力していたため、素晴らしいフレーズが計画に羅列されていた。しかし、今後の計画では地に足のついた計画で、やることだけを書いて、書きすぎないようにしていただきたい。		
4	全般	⑤(コロナ禍について)予防対策が問われる一方、このような状況だからこそその可能性をまちづくりに活用することが重要であるため、俎上に載せる必要がある。観光や地域経済のあり方など、これまで通りにはいかない中でどのように進めるかを考える必要がある。		
5	全般	③総合計画における評価の位置づけは重要なポイントである。これまでの評価に基づいて新たな計画を作るべきであるため、今後問われていくのは、実施したことによって出た効果であるアウトカムである。どのようにアウトカム指標を計画に盛り込み、進捗を評価していくのかも、今後議論したい。		【テーマごとに進捗を管理するため「主要指標」を設けた。】
6	全般	⑦評価は定量的な基準があるべきだと思う。感覚的に決めてはいけない。民間企業ではすべて数値で評価されるが、行政ではあまり数値は出さない。難しいと思うが、具体的な基準を示すことができる方法を検討していただきたい。お互いが理解できる基準を設けて欲しい。	・まちづくりを我が事として捉えることができるように、各分野の施策が市民生活にどのように関わっていくのかを、分かりやすく示すように努められたい。	
7	人口の見通し	②人口推計で想定されている定住人口だけでは、視点として不足していく。近年は、関係人口や交流人口が注目されている。茂原市に關係する人、訪れる人、産業で協力する人、ふるさと納税をする人、チャレンジする人などを増やす視点が重要となってくる。定住人口の視点から発想を変えることも必要だと思う。	・計画の進捗評価に用いる成果指標の設定にあたっては、定量的で、誰もが理解できるものとなるように努められたい。	
8	土地利用	②生活インフラの維持にお金がかかってしまうため、市内に散在している住宅などを集約していく必要があると思う。		第3節 土地利用 (中略) 快適な暮らしを維持するために「都市計画マスタープラン」などの土地利用の基本方針に基づき、適切な都市計画事業の導入や、各種規制誘導策の充実などにより、無秩序な開発によるスプロール化を防止し、計画的な土地利用を推進します。
9	土地利用	②市街化していく区域としない区域をはっきり仕分けすることによって、コンパクトシティを進めることも必要になると思う。		
10	土地利用	②農業に関しては、茂原市では耕作放棄地、遊休農地が増えているが、これは、従事者の高齢化や担い手不足が原因である。行政も中に踏み込んでいく必要がある。		第3節 土地利用 (中略) 農地は農業生産の場としてだけでなく、多面的機能により、災害の防止や自然環境の保全など、我々の生活に様々な「めぐみ」を与えてくれる貴重な資源です。農業振興地域において農地の保全・管理を図るとともに、増加している耕作放棄地の減少に努め、農業的土地利用の維持・再生を推進します。
11	財政の見通し	⑤財政の見通しの歳入について、市税よりも交付金の方が多いが、このペースで維持できるのか。少子高齢化で財政は厳しい。コロナで大判振る舞いしたが、それが続くのか。他力本願にならないようにしてほしい。タイムスケジュールが挙げられていないため、5年間どのように進めていくのか教えていただきたい。地域の水害対策を申し上げて10年以上になるが、進行状況は遅い。歳入についてしっかりと予測してほしい。		

No.	項目	意見・提言等	答申	総合計画の記載内容
1	生涯学習	⑤茂原市の駅前の図書館は、開かれているように感じない。駅に近いというだけで良いわけではない。閉じられた箱型図書館ではみんなが使いづらく、現代的な図書館ではない。今までの図書館は、個人が調べて借りて帰るだけだったが、最近の良い図書館はコミュニティが生まれる工夫をしているため、ハード面の整備も必要ではないか。		テーマ1 施策5 (2)図書館の整備 利用者のニーズを的確に取り入れ、時代に即した利便性の高い学習の場の確保に努めるとともに、多世代に渡るニーズに対応した多様な蔵書の収集に努めます。
2	生涯学習	⑤図書館司書を全小学校・中学校に配置することが望ましい。また、図書館について、指定管理者は工夫しており、利用者が増えているが、もっと学校図書館との連携が必要である。学校図書館は限られた蔵書しかないため、生徒が中央図書館から蔵書を気軽に利用できるようなシステムを構築してほしい。		
3	学校教育	⑤茂原市では、乳幼児から小学生までは読書好きな子どもが多いが、中学生から読書から離れてしまう傾向がある。小学校まではいろいろな方法で読書の楽しさを教える機会があるが、中学校の読書活動にも、もっといろいろな施策を講じる必要があると思う。アンケートによると、本が好きな子どもは多いが、読書から離れていく原因を考えてほしい。読書はいろいろな能力の基礎となるものである。		テーマ2 施策1 (1)確かな学力の育成 学校司書を中心とした授業支援を行うとともに、本に親しむ意欲と態度を育成する読書活動の充実を努めます。
4	学校教育	②子どものうちからまちづくりの一翼を担う仕組みを作れないものか。行政と教育委員会が協力して動いてもらいたい。		テーマ2 施策1 (2)変化する社会で活躍できる能力の育成 子どもたちが豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手として予測不可能な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層育成していくよう努めます。
5	学校教育	③公園や道路は、子どもの視点で見直す必要がある。東京の自治体では、公園のリニューアル計画について子どもが議会に陳情して実現している例があるという。今の子どもは議会に陳情できる能力をもっているため、その能力に磨きをかけるため、教育に力を入れるべきだと思う。		
6	学校教育	③教育現場に携わるものとしては、子どもが将来健全な納税者になることを期待して、教育に投資していくことが重要だと考えている。ここでいう教育への投資とは、教育に関する扶助費を指しているのではなく、教育の質の向上を目指した投資である。短期的な効果は見えないかもしれないが、先行投資の大切さを感じている。茂原市の予算の中で教育が占める割合が多いことは存じているが、今後茂原に住み、茂原で働き、納税して支える、または市外で働いていても茂原に住み、子どもを茂原で育てて茂原を支える、そのような人を増やすためにも、教育への投資が大切だと考えている。	・図書館については、学校図書館との連携強化に努められたい。また、利用者によるコミュニティが生まれる開かれたものとなるよう、施設整備についても検討されたい。 ・子どものうちからまちづくりに関わる機会を与え、地域社会の一員として必要な能力の育成に努められたい。	
7	学校教育	④これからの日本の未来を担う子どもは重要だが、先生が忙しくなっている。コミュニティスクールなど、学校だけに頼らずに地域で協力し、人的資源を育てることが必要である。例えば、野球のコーチの支援や、地域の資源を教えることや、登下校の見守りなど、学校側で受け入れることや活用する基本姿勢が必要である。しかし、どうすれば学校側は人的資源育成のシステムを構築できるのかについて、日々の業務の中で先生が考えるのは難しい。よって、市がシステムを考える必要があると思う。まずは、どのような市民が協力できるのか、人材バンクをつくることから始めると良いのではないか。	・子どもの教育については、学校の教職員だけに頼るのではなく、地域の人材を活用し、地域全体で支える体制の構築に努められたい。 ・「市民ひとり1スポーツ」の理念普及に努め、老若男女を問わずスポーツを楽しむ機会を創出するため、組織横断的な取り組みに努められたい。	テーマ2 施策2 (5)地域教育力の強化 学校や保護者、地域の方々とともに知恵を出し合い、よりよい学校運営を図るため、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支えられるよう、教育体制の強化に努めます。
8	学校教育	⑤保護者や地域住民への説明は重要である。山武市では、最初にポタンを掛け間違え、トップダウンで統廃合を進めたため、地域住民は納得していない。そうすると、学校運営ができなくなるため、合併する際は説明を丁寧にする必要がある。また、親の目線だけでなく、子どもの目線が重要である。山武市では親と子の考え方が違い、親は合併反対だが、子どもは合併して学区も選びたいという考えがある。これらを踏まえた対応が必要だと思う。	・文化活動の拠点となる施設の整備を要望する。	テーマ2 施策3 (3)学校再編の推進 保護者や地域との意見調整を図りながら、計画に沿って学校再編を推進します。
9	スポーツ	⑤健康スポーツに関し、「市民ひとり1スポーツ」の取り組みを行っているが、現在どのくらいの水準になっているのか。競技スポーツも健康スポーツの一部と捉えることもできる。縦割りではなく、色々な分野に横断的に関わらないといけない。茂原はスポーツに関心のあるまちだと思う。		テーマ3 施策2 (2)スポーツによる健康・体力づくりの推進 気軽にスポーツができる機会、環境を整備し、スポーツ習慣をつくる意識啓発に努め、高齢者には健康寿命の延伸や介護予防を目的としたプログラムの提供をするため、関連部署との連携を図ります。また、障害の有無に関わらず誰もが参加できるスポーツ環境の整備に努めます。
10	文化芸術	②最近では文化的な施設が少なくなっており、文化活動ができる場所を行政と一緒に作る必要がある。文化のない所に人は来ないと思う。		テーマ4 施策1 (1)文化施設の整備 (仮称)茂原市民会館については、建設基本計画策定後の状況変化を踏まえ、改めて検討を進め、早期の建設を目指します。
11	青少年健全育成	④子どもに色々な場を与えるための取り組みが進んでいるが、子どもに対して大人がしてあげていることである。しかし、中高生は市民の一人であるため、もっと意見を聞いたり、乳幼児の検診の手伝いをできるとよい。母親が集まる場所は、フレンドリーで良い雰囲気であるので、中高生などこれから子育てに関わる人に来てもらえば良い。若年層のうちから、子どもを産み育てることに触れる機会があると良い。アンケートによると、茂原に住みたくないという中高生が多く、10年後に若い人がいなくなってしまうのではないかと。10年後に茂原の主演となる中高生に場を与えるのではなく、大人の一人として参加できる環境が必要であると思う。このような会議を聴く機会もないと思うし、参加の機会を作らないと若い人が減ってだんだん高齢化していくと思う。		テーマ5 施策1 (1)青少年育成体制の充実 青少年の豊かな人間性を育むため、地域住民の参画を得ながら、体験型学習や異なる年代の交流等の多様な経験をえられる機会を提供します。

No.	項目	意見・提言等	答申	総合計画の記載内容
1	地域福祉	③居場所づくりについては、社会を持続させるのは人であるため、空き家を活用するなどして、行政がバックアップして市民の活動拠点を整備する必要がある。働く場所も必要だが、集まれる場所や若い人が遊べる場所づくりが必要であるため、大胆に市街地を整備する必要がある。地域コミュニティが希薄化していることへの対策や少子高齢化への対策にお金をかけるべきだと思う。		
2	子育て支援	②若い人が茂原で生活できるように、子育て環境の整備が重要だと思う。		
3	子育て支援	②改善はされているが、フルタイムで働いている母親を支援する施策が必要だと思う。		テーマ2 施策2 (1)保育・幼児教育の充実 多様な保育ニーズに合ったきめこまやかな保育サービスを提供するため、延長保育や一時預かり保育の充実に努めます。
4	子育て支援	⑤人口減少を抑制するために、子育て支援は重要である。他市になような取り組みが必要である。女性が茂原で子どもを育てて働けるようになる施策を考えていただきたい。女性職員中心で施策を作るとよい。例えば、駅近に子ども施設やスーパーマーケットが集約しているモデル地区を作るなどが考えられる。	・少子化、晩婚化、核家族化といった社会要因や、経済要因で複雑化した、子育て世帯が抱える課題を十分に把握し、必要な支援が行き届くように努められたい。	
5	子育て支援	③子どもと教育の分野にお金をかけてもらいたいと思う。女性の支援や高齢者の活動にもつながる。今もある程度できているが、0歳児から子どもを預けられる体制をしっかりと作ってもらいたい。保育所に看護師を一人雇えば、小児科が少ないところでも助かると思う。子どもが病気のときでも預けられるので、よいと思う。子どもの遊び場に高齢者が見守りとして手伝うことで、子どもと関わることで生きがいがあると思う。子どもの頃に高齢者と楽しく過ごした経験が多くある子どもは、自然と市に愛着が出てくると思う。一度市外に出ても、子どもを育てるときに茂原はよいなあと思う。市外で働くが、住むのは茂原と思えばよい。莫大なお金は必要ないが、できることは多いと思う。	・子育て支援と高齢者福祉など、異なる施策分野で連動し、相乗効果が得られるような取り組みを検討されたい。 ・心身ともに健康で豊かな生活実現のため、受診しやすい検診制度の整備に努められたい。	関連する時間的・空間的視点に関わる取り組み 年代の異なる子ども同士や子どもと高齢者など、地域社会における世代間交流を通じて、子育てを地域で支える意識の醸成を図ります。(時間的視点)
6	高齢者福祉	⑤子育て支援と高齢者福祉は、基本計画でどれくらい連動するのか。放っておくと、それぞれで自己完結していく傾向にある。行政も地域活動も分野で完結してしまう傾向があるため、もっと交わりを増やし、相互に連動できないか。		
7	保健医療	⑤児童生徒は、学校で歯科検診を受けているが、他の世代では歯科検診はなおざりになっているのではないか。公的な支援の歯科検診を受ける人は少ないのではないか。働き盛りの世代は、時間的に公的な支援の歯科検診が難しい。予防のための歯科検診への支援を厚くし、まちの歯医者でも気軽に歯科検診が受けられる制度など、利用しやすいようにしてほしい。		テーマ5 施策2 (2)特定健康診査等の推進 継続的な検(健)診や受診の習慣化を図るとともに、受診者の利便性に配慮した受診機会の拡大に努めます。

茂原市総合計画審議会答申並びに意見対応(産業振興)

No.	項目	意見・提言等	答申	総合計画の記載内容
1	農林業	④現在、遊休農地が増えている。大規模農業や観光都市の実現以前に、基盤整備事業の推進などの文言を入れていただきたい。基盤整備の完了は10年間かかるため、未来を見据えた記載をすることで、地に足のついた計画になる。		テーマ1 施策1 (1)土地改良の推進 農家への啓発、土地改良事業の推進に努めます。
2	農林業	⑦土地改良によって道路整備や排水整備などすべてのことがうまく進み、まちづくりに貢献できる。土地改良法に則って、他にも土地改良に参加する地区も出てくると思うため、今後も連携して行政指導を進めて欲しい。		
3	農林業	⑦農業の担い手の育成や経営の改善、農産物のブランド化と販路拡大について、人と予算と時間が限られる中、このようなバラ色の目標は達成できるのか。今のブランドを保つのも難しいのに、ブランド化はできるのか。特産物の栽培促進を具体的にどのように行うのか、イメージが湧かない。主要指標の項目があるが、担い手の育成、法人化、多様な販路拡大、所得向上における目標値の設定、進捗管理の方法について教えていただきたい。		テーマ1 施策3 (3)農業後継者の育成 国・県の農業関係機関、JA長生、農業委員会との連携を通じた農業後継者の育成に努めます。
4	農林業	⑦本納ネギは最盛期の6分の1の生産量しかない。行政と流通の連携が必要である。商品戦略、地域戦略が無いと。総花的ではなく、選択と集中が必要。	・農業の担い手育成や農産物のブランド化などの施策については、関連団体と緊密な連携を図りながら、戦略的に取り組むことに努められたい。	
5	農林業	⑦茂原市だけでなく、日本と千葉県の農業の現状では、後継者がいない。このまま推移すると大変なことになる。兼業主体の農業者の視点など、純粋に農業を守ることから脱却した違う発想が必要だと思う。例えば、食の安全性をPRして自分で農作物を作るなど、一般市民を巻き込み農業の楽しさを伝えることで、その中から農業を始める人がいるかもしれない。兼業農家の農地は3,000~5,000㎡が多いのに、新規就農認定に5,000㎡必要なのはハードルが高すぎるのではないか。新規就農には、農機具や倉庫購入のために資本力が必要である。弱い新規就農者を良い方向へ導く方法が必要だと思う。純粋農業ではなく、違う方向からの支援が必要だと思う。耕作放棄地に関し、純粋農業者でないと思えない支援策である。	・市内の農業を持続していくため、新規就農者や兼業農家への支援など、農業経営者の裾野を広げる取り組みを検討されたい。 ・中心市街地の活性化については、商業核が移動している現状を踏まえて、見直しを検討する際は抜本的に取り組まれるよう要望する。	
6	農林業	農地の多面的な機能について、昨年の洪水で分かったように、水田の多面的機能は重要である。農政部門だけでなく、市全体でこの事実を捉える必要がある。地域によっては高齢者一人だけで、草も刈れない農業者が多い。一般の地域住民を取り込んで、多面的保全機能を図るモデル事業を検討したり、国や県に提案したりする必要がある。洪水対策や生活環境の保全と連動した幅広い目線を持つ農業施策を行ってほしい。	・歴史や文化をはじめとする地域資源を活用し、受け取り手の共感を呼ぶストーリーの作成と、時宜を得た情報発信に努められたい。	テーマ1 施策1 (3)農業用排水路の整備 地域資源を地域ぐるみで守り支えていく共同活動の支援に努めます。
7	商工業・中小企業	茂原市では平成11年度に中心市街地活性化基本計画が策定された。日本全国では、ほとんどが失敗している。茂原市では見直しを検討するようだが、何か大きく変わる要素が無いのに取り組んでも、同じ失敗をするのではないか。茂原市の商業核は駅前から移っているため、今までの考え方ではあまり効果がない。商業拠点である茂原市では、やりようによってはうまくいくと思う。中心市街地でうまく土地利用をすると面白いと思うが、新しいアイデアを生まないと中心市街地活性化基本計画を見直してもうまくいかないと思う。		テーマ2 施策1 (1)中心市街地の活性化 中心市街地活性化基本計画の見直しを検討します。
8	シティプロモーション	⑦長南町のお寺に象ができて名所になっている。ストーリーを組むことによって、お寺が観光資源になっている。長柄町の紫陽花の名所は県内10位以内の人気になっている。お金がかかった施設ではないが、うまいストーリーづくりがあって初めて報道されて共感を呼ぶ。茂原市の花であるコスモスの名所がいつのまにか無くなっている。自分たちの資源を大切にすることが必要。七夕まつりについても大人の発想には限界がある。これからの時代を担う子どもにも企画させて実際にやってみるのが良い。小さな取組をいくつも持続することが必要だと思う。		テーマ3 施策3 (1)積極的な魅力発信 市民の参画を得ながら、茂原ブランドの浸透・共有と地域情報流通の促進を相互補完的に実施し、茂原の魅力向上や活性化に繋げることで、交流人口や関係人口の増加を図ります。